

1 得点分布及び小問ごとの正答率

〈表1〉得点分布

得点	660人	
	人数	%
100	0	0.0
90～99	16	2.4
80～89	74	11.2
70～79	139	21.1
60～69	121	18.3
50～59	123	18.6
40～49	99	15.0
30～39	53	8.0
20～29	26	3.9
10～19	9	1.4
1～9	0	0.0
0	0	0.0

*合格者の中から、無作為に抽出した660人(12.7%)の結果である。

〈表2〉小問別正答率(%)

大問	小問	正答率	
1	(1)	72.3	
	(2)	35.3	
	(3)	73.9	
	(4)	70.0	
	(5)	ア	87.6
		イ	86.5
	(6)	ア	92.0
		イ	39.7
	(7)	83.3	
	2	(1)	76.8
		(2)	53.8
		(3)	89.8
		(4)	30.2
		(5)	ア
イ			35.8
(6)	74.1		
小計		66.0	
2	(1)	71.9	
	(2)	56.4	
	(3)	ア	63.0
		イ	54.8
	(4)	52.0	
	(5)	69.5	
	(6)	67.7	
	(7)	29.7	
	(8)	32.9	
(9)	76.7		
小計		55.8	
3	(1)	83.6	
	(2)	85.6	
	(3)	A	57.7
		B	58.1
	(4)	65.0	
	2	(1)	91.8
		(2)	74.2
(3)		44.5	
(4)	(4)	62.4	
	(5)	賛成	41.5
反対		29.9	
小計		61.9	
4	(1)	37.0	
	(2)	57.1	
	(3)	80.3	
	(4)	38.9	
小計		53.3	

〈表3〉大問別の正答率の経年比較

大問	分野	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
1	地理的分野	77.0	65.3	63.8	52.3	66.0
2	歴史的分野	62.5	68.1	58.7	47.6	55.8
3	公民的分野	72.2	66.1	54.2	50.4	61.9
4	3分野融合	—	—	—	—	53.3

2 分析結果の概要

〈表1〉について、70点以上の得点者の分布は34.7%で、昨年度の14.8%と比較するとかなり増加している。50点未満の分布は28.3%で、昨年度の57.6%と比較するとかなり減少している。

〈表2〉について、いずれの大問においても、知識・技能を用いて、地図やグラフ等の諸資料を活用し、考察したことを表現する力をみる小問の正答率が低い。

〈表3〉について、分野別の正答率は地理的分野が高く、歴史的分野が低い。昨年度との比較では、3分野ともに正答率が高くなった。また、4は各分野の基礎的・基本的な内容を中心に構成した3分野融合の問題である。正答率は各大問の中で最も低い。

3 小問ごとの内容及びねらい

大問	小問	内容	出題のねらい	出題形式			評価の観点			
				記号 選択	用語 記述	記述	知識 理解	思考 判断	資料 活用	
1	1	地理的分野	(1) 大陸との関係からインド洋の位置を理解している。		○		●		●	
			(2) 地図中の経線を正確に読み取ることができる。			○		●	●	
			(3) 地図上で南半球の国々と日本との位置関係を読み取り、距離について考察することができる。	○				●	●	
			(4) 南半球の地域的特色について理解し、資料から判断することができる。	○				●	●	
			(5) シドニーと東京の時差を計算することができる。			○	●			
			(6) 南半球の国々と日本との貿易について、資料からその特色や結び付きを考察することができる。			○		●	●	
			(7) グローバル化について理解している。		○		●			
	2			(1) 日本海流について理解している。		○		●		
				(2) 日本の気候の特徴について理解している。			○	●		
				(3) 日本の米の主な生産地について理解している。	○			●		●
				(4) 資料から自給率の低下と貿易の自由化を関連付けて、考察することができる。		○			●	●
				(5) 日本の林業の現状と課題について、国内外の環境と関連付けて、考察することができる。			○		●	●
				(6) 地産地消の利点について、環境やエネルギーと関連付けて、資料から考察することができる。			○		●	●
	2		歴史的分野	(1) 年代の表し方や時代区分について理解している。	○			●	●	
(2) 古代の日本社会と漢字の伝来を関連付けて、資料から判断することができる。						○		●	●	
(3) 古代と中世の社会の変化について理解している。					○		●		●	
(4) 中世の新しい仏教の特色について、資料から考察することができる。						○		●	●	
(5) 中世を代表する文化について理解している。				○			●			
(6) ヨーロッパ人来航の影響について、資料から読み取ることができる。				○			●	●	●	
(7) 開国後の貿易について、欧米諸国の情勢と関連付けて、資料から判断することができる。						○		●	●	
(8) 戦後改革が目指した民主化と平和な国家の再建について、資料から考察することができる。					○		●	●	●	
(9) 様々な意見を参考にして、歴史を学ぶ意義を自分なりに考察し、表現することができる。						○		●	●	
3	1	公民的分野	(1) 判決内容を読み取り、裁判の種類について、判断することができる。			○	●	●	●	
			(2) 三権分立について資料から判断することができる。	○				●	●	
			(3) 国会と内閣のはたらきについて理解している。		○		●	●		
			(4) 国民の政治参加について、考察することができる。			○		●	●	
	2			(1) 少子高齢社会を資料から読み取ることができる。		○		●		●
				(2) 地方税の内容について理解している。	○			●		
				(3) 高度経済成長の時期について理解している。	○			●		●
				(4) 「団塊の世代」の定年退職が企業に与える影響について、判断することができる。			○	●	●	
(5) 資料から消費税率を上げることの影響を読み取り課題や利点を考察することができる。	○				●	●				
4		融合	(1) 江戸時代の社会のようすについて理解している。	○			●			
			(2) 東北地方の地形について理解している。		○		●	●	●	
			(3) 日本の河川の特徴について、表現することができる。			○	●		●	
			(4) 条例制定の直接請求権について理解している。		○		●			

4 標準解答及び考察

1 〈標準解答〉

1	(1)	インド洋	(2)	西経135 度	(3)	②	(4)	ア	(5)	ア	15	イ	1
	(6)	ア	増加	イ	鉱産資源	(7)	グローバル化						

〈ねらい〉

南半球の国々と日本とのかかわりについて調べる場面の中で、世界の地域構成や世界と比べて見た日本などの基礎的・基本的な知識や理解力、資料に基づいた思考力・判断力をみる問題である。

〈考察〉

- ・ インド洋の位置やシドニーと東京の時差、日本と南半球の国々との距離、グローバル化などは正答率が高い。
- ・ 地図上の経線に関する問いは、35.3%と正答率が低く、世界の地域構成を理解する上で、基礎的・基本的な内容であるため、十分な理解が求められる。
- ・ 南半球の国々から日本への輸出品の特徴を読み取る問いは、39.7%と正答率が低い。資料を読み取っているものの、「化石燃料」等、適切でない用語の使用が誤答例にみられた。

〈今後の指導〉

- ・ 地球儀や世界地図、白地図を活用した学習を充実させるとともに、ある程度間隔をおいて繰り返し指導することで、基礎的な知識や技能の定着を図る。
- ・ 資料を読み取る学習においては、資料の中の根拠となるものを明確にして、適切に表現する指導を行う。

〈標準解答〉

2	(1)	日本海流(黒潮)	(2)	(例)日本海側は雪が多く、太平洋側は乾燥した晴天が続く。									
	(3)	エ	(4)	貿易(輸入)自由化									
	(5)	ア	(例)国産材よりも外国産材が安い	イ	(例)林業就業者数の減少と高齢化								
	(6)	(例)地元のものを地元で消費することで、輸送する距離が短く、輸送のときに出る二酸化炭素の量を減らすことができ、環境によい。											

〈ねらい〉

宮崎県の地産地消運動に関する資料を基に、日本の農林水産業について、調査研究を行う場面の中で、日本の地理的特色や農産物生産に関する基礎的・基本的な知識や理解力、畜産や林業に関する資料に基づいた思考力・判断力、資料活用能力・表現力をみる問題である。

〈考察〉

- ・ 米作や畜産など、日本の農業全体に大きな影響を与えた「貿易自由化」を答える問いは、正答率が30.2%と低い。
- ・ 林業の課題と現状に関する問いは、「林業就業者数の減少と高齢化」の正答率が35.8%と低い。複数の内容を示しているグラフの読み取りが十分ではないと思われる。
- ・ 地産地消の利点を、環境やエネルギーとの関連で判断する問いは、正答率が74.1%と高い。地産地消運動や、食料の輸送に伴う二酸化炭素の排出量に関する資料を的確に読み取り、判断した結果と思われる。

〈今後の指導〉

- ・ 地産地消等の身近な事例を学習内容と関連付けることを通して、学習内容に関心をもたせるとともに、適切な課題を設けて行う学習の充実を図る。
- ・ 課題の解決に関わる様々な資料を的確に読み取らせて、自分の考えを発表したり、記述したりする学習の充実を図る。

2 <標準解答>

(1)	イ	(2)	(例)このころの日本にはまだ文字がなかったから。		
(3)	ア	天皇・貴族	イ	武士	(4) (例)わかりやすく、実行しやすかった
(5)	エ	(6)	ア		
(7)	(例)アメリカ国内で南北戦争が起こり、日本との貿易ができなかったから。				
(8)	ア	民主	イ	平和	
(9)	(例)過去のことが現在につながっていることを学び、現在の生活に生かしていく。				

<ねらい>

文化祭の展示に、社会科の歴史的分野の学習成果を生かすという場面の中で、古代から現代までの日本に関する基礎的・基本的な知識や理解力、思考力・判断力、資料活用能力・表現力をみる問題である。

<考察>

- ・ 全体の正答率は、55.8%とやや低い。小問別にみると、諸資料を活用し考察したことを表現する力をみる問いの正答率が低い。人物名や歴史的事象、年号などに関する知識を基に、考察したり、表現したりする力が十分でないと思われる。
- ・ 幕末期の貿易の特色と南北戦争を関連させて考察する問いは、正答率が29.7%と低い。複数の資料から特定の歴史的事象の因果関係を考察する力が十分ではないと思われる。
- ・ 戦後改革に関する資料から、「民主的で平和な国家」を答える問いも29.9%と低い。それぞれの資料から具体的な戦後改革を読み取って、完全な解答を導いていない誤答が多くみられた。個々の歴史的事象は理解しているものの、大きな歴史の流れや学習内容の主題的な部分に対する理解が十分でないと思われる。

<今後の指導>

- ・ 日本の歴史の大きな流れと各時代の特色を、世界の歴史を背景に理解させるために、政治の展開、産業の発達、社会のようす、文化の特色など、各時代の相違点や共通点を明らかにする。
- ・ 歴史的事象の因果関係を考察させたり、疑問に対する仮説を設定させたりするなど、歴史学習に対する興味・関心を引き出す授業を行う。
- ・ 過去の歴史と現在の生活との関連について、生徒が考察できるような展開や教材の開発を行うことで、歴史学習の意義を生徒に実感させる。

3 <標準解答>

1	(1)	記号	イ	理由	(例)被告人に有罪の判決と刑罰を言い渡しているから。		
	(2)	ウ	(3)	A	内閣	B	国会
	(4)	(例1)積極的に政治に参加していく (例2)主権者としての自覚をもって、選挙のときに投票する					

<ねらい>

裁判員制度について調べて発表するという場面の中で、裁判の種類や国会、内閣のしくみ、国民の政治参加に関する基礎的・基本的な知識や理解力、思考力・判断力、資料活用能力・表現力をみる問題である。

<考察>

- ・ 閣議や法律の制定に関する内容を基に、「内閣」と「国会」を答える問いは、正答率が60%を下まわり、無解答も目立った。内閣などの機能を具体的な事例で理解していないと思われる。
- ・ 主権者として、どのような姿勢で国政に参加するべきかを、適切に述べられていない解答もみられ、政治の学習で最も重要な内容に対する定着が十分ではないと考えられる。

〈今後の指導〉

- ・ 公民的分野の学習における基礎的・基本的な内容において、重要用語等の概念を、具体的な社会的事象に当てはめながら、明確に理解させる。
- ・ 資料を活用する学習においては、日常の社会生活と関連付け、具体的な社会的事象を取り扱った上で、自分の言葉でまとめさせたり、説明させたりする指導を行う。

〈標準解答〉

	(1)	少！子！高！齢！社会	(2)	イ	(3)	イ	(4)	ウ
2	(5)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 賛成：(例)社会保障関係費が増えるなか、税金を増やすことができる。 ・ 反対：(例)所得の少ない人ほど、消費税負担額の割合が高くなる。 						

〈ねらい〉

ふるさと納税制度について調べて発表するという場面の中で、日本経済や現代社会の課題に関する基礎的・基本的な知識や理解力、思考力・判断力、資料活用能力・表現力をみる問題である。

〈考察〉

- ・ 日本の人口ピラミッドを示すグラフから、「少子高齢社会」を答える問いは、正答率が91.8%とかなり高い。基礎的な内容が確実に身に付いていると思われる。
- ・ 消費税に関する意見を考察する2つの問いは、正答率が41.5%と29.9%と低い。複数の資料から、必要な情報とその内容を選択して解答に結び付ける力が十分でないと思われる。
- ・ 「団塊の世代」の定年退職が企業に与える影響を判断する問いは、正答率が44.5%と低い。具体的な社会的事象を学習内容に当てはめて、判断する力が十分でないと思われる。

〈今後の指導〉

- ・ 与えられた資料の中から課題を見いだす学習や、課題の解決に向けて、具体性のある内容を論述したり、意見を発表したりする学習を充実させる。
- ・ 課題の解決を目指した学習を計画的に取り入れることにより、生徒同士がお互いの立場や考えを深め合い、公正な判断を下し得る能力が育つような学習の場面を設ける。

4 標準解答

(1)	ア	(2)	奥羽 山脈(山地)		
(3)	(例)距離が短く、急流で、流域面積がせまい			(4)	150 人以上

〈ねらい〉

国語科で学習した松尾芭蕉の「奥の細道」に関心をもち、社会科の視点で調査研究を行う場面の中で、3分野に関する基礎的・基本的な知識や理解力、思考力・判断力、資料活用能力・表現力をみる問題である。

〈考察〉

- ・ 江戸時代前期の社会のようすに関する問いは、正答率が37.0%と低い。各時代の産業や文化などの特色を、大きな歴史の流れのなかで理解することが十分でないと思われる。
- ・ 松尾芭蕉の句を参考にしながら、日本の川の特徴を説明する問いは、正答率が80.3%と高い。与えられた3つの視点に基づいて、適切に表現されていると思われる。

〈今後の指導〉

- ・ 各分野の特質に応じた学習指導を展開するなかで、他の分野の位置付けや役割に留意し、各分野の有機的な関連を生かしながら、全体として調和がとれるような指導を展開する。
- ・ 3つの分野の関連を重視した学習を時宜的に展開することで、生徒の興味・関心を高め、全体として社会科の目標が達成できるようにする。